

日本肢体不自由児協会が 実施する各事業へ ご協力をお願い



社会福祉法人日本肢体不自由児協会

事業企画推進課長 伊賀寛



R8. 5. 14

肢体不自由児・者の美術展／デジタル写真展への 作品応募勸奨について



令和7年12月3日 作品をご鑑賞の様子
常陸宮妃殿下

表彰式の様子

【対面表彰】

文部科学大臣奨励賞



特賞作品 せおりつひめ
(コンピュータアート)

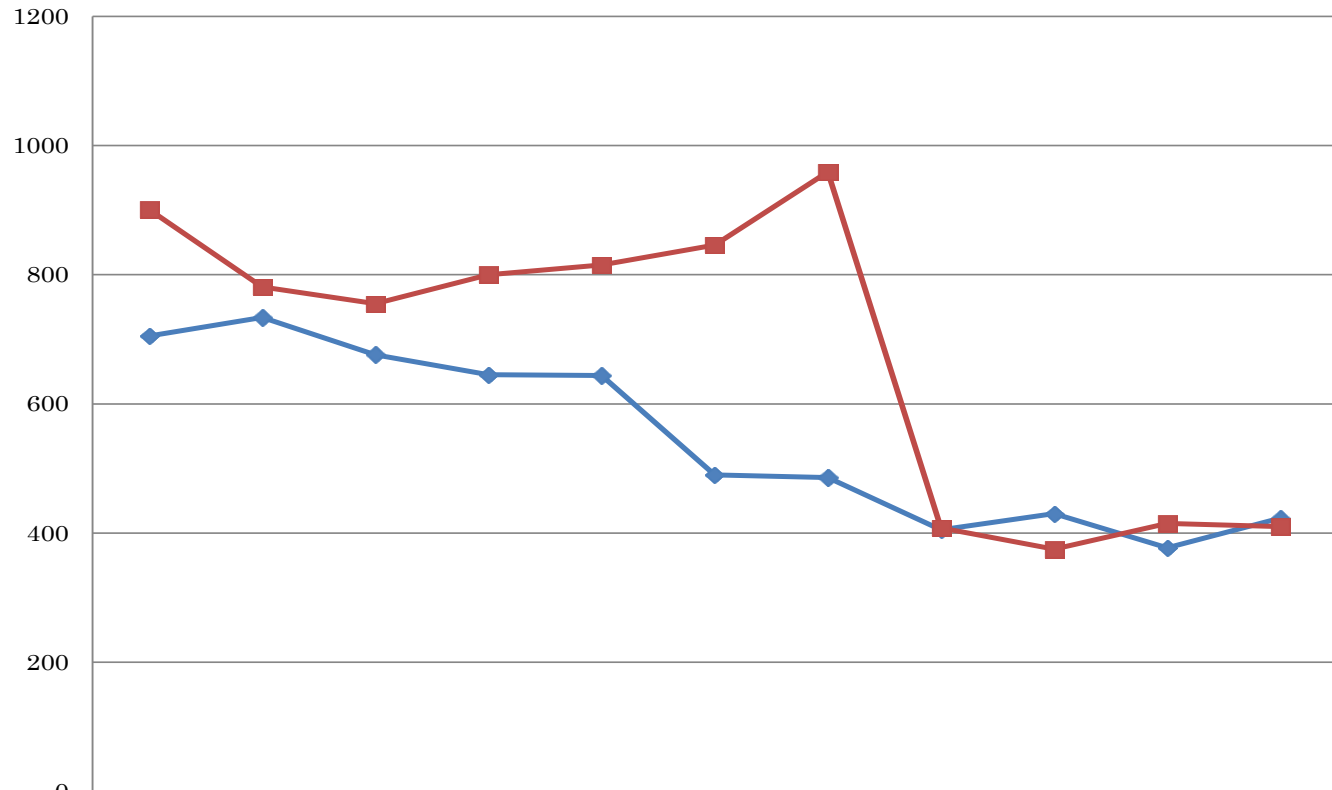
【オンライン表彰】

全国特別支援学校
肢体不自由教育校長会賞



特賞作品 「俊」な大人になるよ！
(書)

作品応募数推移



	平成27年 (34回)	平成28年 (35回)	平成29年 (36回)	平成30年 (37回)	令和1年 (38回)	令和2年 (39回)	令和3年 (40回)	令和4年 (41回)	令和5年 (42回)	令和6年 (43回)	令和7年 (44回)
◆ 美術展作品応募数	705	734	676	645	644	490	486	405	430	377	423
■ 写真展作品応募数	901	781	755	800	815	846	959	408	375	415	410

※令和4年度よりデジタル写真展の応募は1人2点から1点に変更

令和5年よりコロナ禍が少し落ち着き、児童生徒の作品が徐々に増える
と期待しておりましたが、コロナ禍前の応募数には戻っておりません。
作品制作を授業で取り組んでいただき、皆様の応募をお願いします。

第45回(令和8年度)

肢体不自由児・者の 美術展／デジタル写真展

全国の肢体不自由児・者から美術作品・デジタル写真作品を募集して、12月の障害者週間に合わせて展示会を開催し、肢体不自由児・者の生きがいづくりに資するとともに、一般の方々の障害者に対する理解を促進することを目的としています。

■応募資格：肢体不自由児・者

■美術展応募要領

- ・1人1点に限ります。
- ※ただし、絵画・書・コンピュータアートの3部門でそれぞれ1点ずつは受け付けます。
- ・グループで制作されたものは不可です。
- ・題(テーマ)は自由です。
- ・未発表(所属先等での内部発表会は除く)のオリジナル作品に限ります。
- ・構図やデザイン等を模写した場合は、原作者の了解を得てから応募してください。
- ・応募用紙に必要事項をもちきり記入の上、制作風景の写真(応募作品制作時のものでなくても可)を必ず貼付してください(制作風景写真は作品審査の参考になさっています)。
- ※応募用紙は部門ごとに異なりますのでご注意ください。
- ※コンピュータアート作品、デジタル写真作品をメールで応募いただいた場合は、受領確認のメールを送信します。受領確認メールが届かない場合は、お問合せ下さい。

■募集作品

絵画

・4つ切りサイズ(38.0cm×54.0cm)以内、ただし油絵画はF8号(45.5cm×38.0cm)以内でペン・サインボード(板紙のもの)のみ受け付けます。※キャンバスは不可。

コンピュータアート

・データでの応募に限ります。
ファイルフォーマットはJPG形式(ファイルサイズは10MB以内)のみでメール(art@nishikyo.or.jp)又はCD・DVD等のメディアに記録したものを郵送で受け付けます。※データ以外は不可。別の形式の場合は必ずお問い合わせください。

書

・書道用紙で半紙、半切 $\frac{1}{2}$ 紙(ハッ切)、半切 $\frac{1}{4}$ 、半切 $\frac{1}{8}$ 、半切 $\frac{1}{16}$ 、半切、全紙のみでその他不可(硬筆はB4以内)。

※いずれも額に入れたり、台紙にはったり、裏打ちをしないでください。

※書道用紙以外など規格外の作品については、必ずお問い合わせください。

※佳作賞以上に入賞された書作品は当方で裏打ちし展示するため、湿む恐れの高い墨等を使用した場合はその旨をご連絡ください。

※作品にはできるだけ名前又は落款を入れてください(名前・落款両方も可)。

※落款は、湿む可能性が高いスタンプではなく、朱肉を使用してください。

■デジタル写真展応募要領

- ・1人1点に限ります。・本人が撮影したものに限り、
- ・題(テーマ)は自由です。
- ・未発表(所属先等での内部発表会は除く)のオリジナル作品に限ります。
- ・応募用紙は参考形式を参照してください。
- ・必要事項が記入されていれば書式は自由です。

■募集作品

- ・データでの応募ファイルフォーマットはJPG形式(ファイルサイズは10MB以内)のみでメール(art@nishikyo.or.jp)又はCD・DVD等のメディアに記録したものを郵送で受け付けます。※データ以外は不可。
- ・別の形式の場合は必ずお問い合わせください。
- ・学校や施設等での施設名応募の際は一枚のCD等での応募は可能です。(ファイル名で主催者側がわかるようにしてください)
- ・A3サイズにプリントして差し支えない記録画素数、クオリティで応募ください

■審査

美術・写真専門家を含む関係者をもって構成する審査委員会において、作品種類別に分けて障害の種類、程度、年齢等を考慮して以下の賞を定めます。

【美術展】

- ◎特賞 25点以内
- ◎優秀賞 30点以内
- ◎佳作賞 40点以内
- ◎努力賞 24点

【デジタル写真展】

- ◎特賞 5点以内
- ◎金賞 12点以内
- ◎銀賞 22点以内
- ◎銅賞 74点

◎審査委員特別賞

特に審査委員の推奨のあった作品に贈ることがあります。入賞者全員に賞状及び入賞作品を掲載した作品集を贈呈します。

◎参加賞

応募された方全員に記念として参加賞を贈呈します。

■表彰式 令和8年12月3日(木) (予定)

特賞受賞者(厚生労働大臣賞、文部科学大臣賞、内閣府特命担当大臣賞、東京都知事賞をはじめとする後援・協賛・主催団体賞)の表彰式を執り行い、賞を贈呈します。審査結果は11月中旬に通知します。

■展示会 令和8年12月3日(木)～6日(日)の4日間

東京芸術劇場にて開催(東京都豊島区)。

美術展は、佳作賞以上、デジタル写真展は銀賞以上の作品を展示予定です。

その後、新潟県・福岡県・沖縄県等巡回展示予定です。

展示作品は、主催者が継続して展示します。

●美術展・デジタル写真展とも応募用紙は当協会ホームページ(<https://www.nishikyo.or.jp/>)からダウンロードをお願いします。

●応募作品の著作権は応募者に帰属しますが、主催者は応募作品を審査結果の発表及び広報のため等に無償で展示及び複製する権利を有します。

●美術展応募作品(絵画・書)に限り送料応募者負担にて希望者には応募作品を返却します。返却時期は令和9年1月中旬を予定しております。また、入賞された場合は各地の巡回展示を予定しているため1年間には当協会に保管し、返却は令和10年1月になります。

●コンピュータアート・デジタル写真作品は返却いたしません。

●入賞された場合は氏名(ペンネーム等不可)・年齢・所属を公表いたします(障害名は公表しません)。



■主催：社会福祉法人日本肢体不自由児協会／各道府県肢体不自由児協会

■後援：厚生労働省／文部科学省／ことば家庭庁／東京都／(予定) 全国特別支援学校肢体不自由教育校長会／全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会／一般社団法人全国肢体不自由児者父母の会連合会／社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団／公益財団法人毎日新聞社会事業団／社会福祉法人NHK厚生文化事業団／社会福祉法人読売光栄文化事業団

■協賛：NTTデータグループ株式会社／公益財団法人オックス宮内財団／テルウェル東日本株式会社



〒173-0037
東京都板橋区小茂根1-1-7
社会福祉法人日本肢体不自由児協会 美術展係
Tel03-5995-4511 Fax03-5995-4515 E-mail art@nishikyo.or.jp

■締切：令和8年9月24日(木)
当日必着

今年度は、9月24日締め切りで、作品募集を開始します。

令和8年度も応募勸奨をよろしくお願ひします。

令和8年12月3日～6日まで、東京芸術劇場(東京都豊島区)にて、入賞作品の展示会を行います。

初日(令和8年12月3日)には、特賞受賞者の表彰式を行います。

ねむの木賞について

ねむの木賞は「ねむの木の子守歌」の歌詞著作権を肢体不自由児事業振興のために当協会に下賜された上皇后陛下の御意志を永く記念するため、昭和42年に設けられました。肢体不自由児施設、重症心身障害児施設、特別支援学校等において永年肢体不自由児の日常生活指導業務等に携わり、優秀な成績をおさめている女性職員(直接処遇職員)に対してその労をねぎらい、また、今後の益々の活躍を期待して毎年授与しています。

推薦要項

- (1) 医療型障害児入所施設(旧肢体不自由児施設・旧重症心身障害児施設)、療養介護事業所(旧肢体不自由児施設及び旧重症心身障害児施設)、福祉型障害児入所施設(旧肢体不自由児療護施設)、医療型児童発達支援センター・児童発達支援事業(旧肢体不自由児通園施設・旧重症心身障害児通園事業)並びに特別支援学校(特別支援学級を含む)に勤務中の女性職員。
- (2) 上記(1)において肢体不自由・重症心身障害のある児童・生徒等の日常生活の指導、看護、養護・介護に直接従事している女性職員。
- (3) 上記業務を永年(10年以上)にわたって勤続し、現職であるとともに優秀な成績をおさめていること。
- (4) 引き続き肢体不自由児等の療育に従事する後進の指導を行うことができる状態であること(今年度で定年の場合などは、継続雇用が現職で見込まれること)。

上記の趣旨に相応しい該当者をご推薦いただけますようお願い申し上げます。

ねむの木賞の教育関係受賞者(敬称略)

- R07(59回) 富永佐世子 熊本県立熊本かがやきの森支援学校
内田真由美 埼玉県立川島ひばりが丘特別支援学校
- R05(57回) 鈴木淳子 東京都立花畑学園
- R04(56回) 東 光代 京都府立向日が丘支援学校
- R03(55回) 新井洋子 東京都立志村学園
町田睦美 東京都立光明学園
- R02(54回) 川崎奈津枝 北海道拓北養護学校
- R01(53回) 加藤裕美子 筑波大学附属桐が丘特別支援学校
- H30(52回) 大山衣絵 東京都立光明学園
- H29(51回) 市川敬子 青森県立青森第一高等養護学校
- H28(50回) 中村秀代 岐阜県立可茂特別支援学校
- H27(49回) 宇崎佳子 新潟県立上越特別支援学校



常陸宮妃殿下とのご接見

高木賞について

高木賞は、わが国で初めて肢体不自由児療育の体系をたてられ、療育事業に偉大な貢献をされた故高木憲次博士の御遺徳を永く記念するため昭和42年に設けられました。高木賞は肢体不自由児療育の領域において特に顕著な功績のあった者(団体)、または同領域において優秀な研究を行った者(団体)に対して授与しています。また、今後肢体不自由児療育の分野において活躍が期待できる者(団体)に対して高木奨励賞を授与しています。

推薦要項

(1) 高木賞

授賞の対象は次の各号のいずれかに該当すること。

ア. 肢体不自由児療育の領域において特に顕著な功績のあった個人、あるいは団体。

イ. 同領域において特に優秀な研究を行い斯業の向上に著しく寄与した個人、あるいは団体。

(2) 高木奨励賞

授賞の対象は次の各号のいずれかに該当すること。

ア. 肢体不自由児療育の分野において功績のあった個人、あるいは団体。

(いずれも将来の活躍を期待できること)

イ. 同療育の分野において優秀な研究を行い斯業の向上に寄与した個人、あるいは団体。

(いずれも将来の活躍を期待できること)

上記の趣旨に相応しい該当者をご推薦いただけますようお願い申し上げます。

高木賞の教育関係受賞者(敬称略)

○高木賞

R05(57回) 下山直人 筑波大学非常勤講師

H29(51回) 古川勝也 西九州大学教授

H25(47回) 西川公司 放送大学客員教授

○高木奨励賞

R01(54回) 長沼 俊夫 日本体育大学体育学部体育学科

H27(49回) THE MAGICAL TOY BOX 代表 金森克浩



令和7年度 贈呈式の様子

はげみ購読のお願い

「はげみ」は、障害児・者を育てるご家族の皆さん、特別支援学校の先生、施設の職員の皆さんにお読みいたために発行しております。医療のこと、リハビリのこと、教育のこと、福祉制度のこと、生活にかかわる情報提供などいろいろなテーマを最近の動向にあわせて分かりやすく解説しています。ぜひ、ご購入ください。

令和8年度 特集

4/5月号	ミラコン2025～未来を見通すコンテスト～第8回プレゼンカップ全国大会特集号
6/7月号	生活の工夫1
8/9月号	生活の工夫2
10/11月号	さまざまな働き方3
12/1月号	手足と体幹の不自由(肢体不自由)をきたす疾患1
2/3月号	手足と体幹の不自由(肢体不自由)をきたす疾患2

編集委員(順不同)

- 吉元信治(厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課課長補佐)
菅野和彦(文部科学省初等中等教育局視学官)
岡崎俊彦(こども家庭庁支援局障害児支援課移行支援専門官)
覚張秀樹(東京女子体育大学教授)
金森克浩(帝京大学教育学部教授)
有吉万里矢(全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会会長)
河井 文(全国肢体不自由児者父母の会連合会副会長)
酒井康年(うめだ・あけぼの学園園長)
澤村 愛(元東京都立光明学園PTA会長)
津田 貴(どこだれ代表)
三室秀雄(元東京学芸大学教職大学院特命教授)
北住映二(心身障害児総合医療療育センターむらさき愛育園名誉園長)
小崎慶介(心身障害児総合医療療育センター所長)
高橋長久(心身障害児総合医療療育センターむらさき愛育園園長)
鈴木健吾(日本肢体不自由児協会常務理事)



年6回発行
年間購読料4,950円

広場

ミラコンに寄せた声

ミラコン2025第8回プレゼンカップ全国大会実行委員会

東京都立小平特別支援学校 事務局長
鈴木 愛 校長

鈴木 愛

令和7年12月3日、東京池袋の東京芸術劇場シフォオニースペースにて、「ミラコン2025」未来を見通すコンテスト「第8回プレゼンカップ全国大会」ファイナルステージが開催されました。本会場には来賓、審査員をはじめ、学校関係者やPTAなど約40名が来場し、全国7校のファイナリストとオンラインで結びました。また、日本全国の肢体不自由特別支援学校に向けてYouTubeによる限定生配信を行い、多くの教職員・生徒が画面越しに見守りました。その中で、全国各ブロック代表7名による熱のこもったプレゼンテーションが披露され、会場は大きな感動と熱気に包まれました。



プレゼン発表後の集計時間を活用し、7名のファイナリストをオンラインでつないだ「特別交流会」を実施しました。互いの発表への質問や感想を交わす時間は、生徒同士の温か

な交流の場となり、ミラコンが競い合うだけの大会ではなく、経験を共有し、互いを高め合う学びの場として育っていることを実感させてくれました。その後の審査結果発表では、文部科学大臣賞に愛媛県立宇和特別支援学校の兵頭紗弥さんによる「巻め！車椅子ユーザーの米作り道」が選ばれました。ドローンやICTを活用したスマート農業を通して祖父の田んぼを継ぎ、車椅子ユーザーとして米作りに挑戦したいという熱意は、多くの人々に深い感動を与えました。

ミラコン創設の思いは、平成30年春の全国特別支援学校肢体不自由教育校長会役員会に遡ります。「肢体不自由特別支援学校の生徒にも「甲子園」のように胸を張って挑戦できる場をつくりたい」という願いが、当時の校長たちの間で共有されました。この思いはスポーツ分野では「ポッチャ選抜甲子園」へとつな



熱気に包まれた本会場の様子

がり、言語・文化分野では多くの関係者の賛同と協力を得て「ミラコン」という形に結実しました。そして平成31年2月に第1回大会が開催され、「未来を見通すコンテスト」としての歩みが始まりました。その後、新型コロナウイルスの感染拡大により数多くの学校行事が中止を余儀なくされましたが、ミラコンはオンライン開催を前提とした大会であったため、その影響を大きく受けることはありませんでした。むしろコロナ禍に全国でICT環境が急速に整備されたことにより、ミラコンの大会運営はよりスムーズになり、参加の裾野が広がりました。8年間の歴史の中で、ファイナルステージ会場は学校から東京芸術劇場へとグレードアップし、配信も教員による手作りからプロによる高品質な映像へと進化しています。また、第3回大会からは最優秀賞に文部科学大臣賞が授与されるようになり、生徒のモチベーションは一層高まりました。

ミラコンのテーマは「未来への提言」、コンセプトは「視点を価値に、経験を未来へ」です。出場する生徒たちは、自らの思いを5分間のプレゼンテーションとして形にし、全国に向けて発信します。グローバル化、デジタル化、DX化が進む一方で、気候変動や少子高齢化などの複雑な課題を抱える現代社会において、自らの考えを整理し、言葉にして他者に伝える力は、これからの時代を生きるうえで欠かせない重要な資質です。ミラコンは、そうした力を伸ばす場として、そして未来へ向けて自身の可能性を広げるステージとして、今後も持続可能な形で継続してまいります。

これからも多くの生徒の皆さんに挑戦してほしいと思います。自らの思いを語り、他者へと伝えるその力は、時を重ねて確かな説得力となり、やがて社会を動かす原動力と

なっていくと思います。皆さんが語る一つ一つの言葉には、未来を照らす光があります。どうか恐れず、ためらわず、自分の思いを社会に届けてください。ミラコンは、皆さんが自らの力を磨き、未来を切り開いていくその一歩を、これからも全力で応援していきます。



7名のファイナリストの皆さん



肢体不自由のある子どもの Windows と iPadOS 活用講習会



開催要項

1. 趣 旨 肢体不自由のある子どもたちの生活や学習を豊かにするためのコンピュータ機器を有効に活用できるよう、講座を行います。本研修会では主に、iPad を中心としたタブレット PC やそれを活用したスイッチ機器の活用と、視線入力機器の活用を中心に講義と実習を行います。

2. 主 催 社会福祉法人日本肢体不自由児協会

3. 日 時 令和8年8月15日(土)～16日(日)

4. 会 場 心身障害児総合医療療育センター 療育研修所 (東京都板橋区小茂根 1-1-10)

5. 交 通 東京メトロ有楽町線及び副都心線「小竹向原」駅下車 徒歩約10分

6. 対 象 特別支援学校・療育関係者(保護者、支援者を含む)等

7. 内 容 肢体不自由児の表現を豊かにするコミュニケーション支援機器の活用方法について「基本設定」「ソフトの選択」「入力方法」「授業での活用実践」などを、専門的立場から指導にあっている第一線の講師による講義と実習により受講します。

8. 講 師 伊藤 史人 (岩手県立大学)
金 森 克 浩 (帝京大学)
鈴 木 章 裕 (あつきーテックサポート)
谷 本 式 慶 (東京都立光明学園)
福 島 勇 (国立高専機構熊本高等専門学校)
和久田 高之 (神奈川県立三ツ境支援学校)

9. 参加費 **16,500円**

10. 日 程 ○1日目(8月15日)9:20～18:00

受付 9:00～

講義(合同)

9:20～9:50 肢体不自由児のための支援機器入門(金森)

10:00～10:40 肢体不自由児のための支援機器活用実践紹介①(谷本)

10:50～11:30 肢体不自由児のための支援機器活用実践紹介②(和久田)

実習(合同)

12:30～14:20 便利な iPad アプリ あつきーの教材工房

実習

Aコース 14:30～16:00 iPadOS「アクセシビリティ機能演習」(福島・金森)

16:10～17:40 「コミュニケーションや学習に役立つアプリ演習」(福島・金森)

Bコース 14:30～16:00 「視線入力装置の設定と導入のコツ」(谷本・和久田・伊藤)
16:10～17:40 「視線入力装置を使ったアプリ操作演習」(谷本・和久田・伊藤)
17:50～18:00 「まとめ」(金森)

○2日目(8月16日)9:00～17:00

実習

Aコース 9:00～10:30 「視線入力装置の設定と導入のコツ」(谷本・和久田・伊藤)

10:40～12:00 「視線入力装置を使ったアプリ操作演習」(谷本・和久田・伊藤)

Bコース 9:00～10:30 iPadOS「アクセシビリティ機能演習」(福島・金森)

10:40～12:00 「コミュニケーションや学習に役立つアプリ演習」(福島・金森)

実習(合同)

13:00～15:00 「EyeMoT シリーズの基本と操作演習」(伊藤)

15:10～16:40 「事例から学ぶ、支援機器活用ワークショップ」

(金森・福島・谷本・和久田・伊藤)

16:50～17:00 「まとめ」(金森)

11. 申込方法

① 6月1日(月)11:00より先着順で受け付けます。
② 当協会ホームページの「研修会」(<https://www.nishikyo.or.jp/action/training.html>)ページから申込してください。

③ 「申込フォーム」より必要事項をご記入いただき、送信ボタンを押してください。

④ 申込確認メールを当協会よりお送りします。

※インターネットでの申込後に申込確認メールが届かない場合はお手数ですが、お電話(03-5995-4511)にてご連絡ください。

※迷惑メールの対策などでドメイン指定を行っている場合、メールが受信できない場合があります。「@nishikyo.or.jp」を受信設定してください。

⑤ 参加費 16,500円 7月31日(金)までに下記口座へ参加者の名義にて払込ください。

三菱UFJ銀行 池袋東口支店 普通口座 口座番号:0000339

口座名義:社会福祉法人日本肢体不自由児協会 理事長 遠藤 浩

宿泊希望の方には、研修所の宿泊室を1人 6,160円(食事なし)にて8月15日泊のみ受付します(ツインルームを1名使用で16室、16名定員)。

希望の場合は受付時にお申し込みいただき、宿泊費 6,160円を参加費とともに払込ください。

⑥ 参加者には、当日のご案内等詳細を8月上旬にメールにてお送りいたします。

⑦ 参加できなくなった場合にはお早めにご連絡ください。

⑧ キャンセルについて

7月31日(金)までにご連絡いただきましたら、参加費は全額ご返金いたします。8月1日以降につきましては、参加費は原則返金いたしません。なお、代理出席の場合は必ず事前にご連絡ください。一般的な旅行契約等とは異なりますが、ご了承願います。

⑨ ※参加者数が規定の人数に満たないときは中止なる場合がございます。

12. お問い合わせ先

〒173-0037 東京都板橋区小茂根1-1-7 社会福祉法人日本肢体不自由児協会 事業推進部

TEL:03-5995-4511 FAX:03-5995-4515 E-MAIL:workshop@nishikyo.or.jp

